



2011/12/06

第 4 回 IWA アジア太平洋地域会議 (IWA-ASPIRE) の参加報告

2011 年 10 月 2 日から 10 月 6 日にかけて、東京国際フォーラムにて、第 4 回 IWA アジア太平洋地域会議が開催されました。

この会議は、国際水協会 (IWA) のアジア太平洋地域における上下水道及び水環境に関する会議として、2 年に一度開催されている国際会議であり、第 1 回 (2005 年) シンガポール、第 2 回 (2007 年) パース、第 3 回 (2009 年) 台北で開催されました。今回は、日本、中国、韓国、台湾、シンガポール、アメリカ、オーストラリア等、アジア太平洋地域の方々が参加し、22 トピック 103 セッション約 700 編の発表がありました。

今回の会議では、東京設計事務所から、荒木隆夫、タパ・パッタ、中園隼人の 3 名が論文を発表しました。

下水道グループの荒木隆夫は、「活性汚泥モデルによる処理限界の検討」について発表しました。効率的な下水処理が求められている中、活性汚泥モデルは処理方法の選定や既存施設の処理能力の把握、効率的な運転状況の検討など運転管理や設計支援において、活用が期待されている。活性汚泥モデルの利活用におけるモデル構築時の具体的な留意点の抽出及び、現有施設の運転状況の範囲内における処理限界の検討を報告しました。モデルの詳細やパラメータ調整等に関する質問を頂きました。

海外事業部のタパ・パッタは、「東ティモールの水道施設整備」について発表しました。施設整備の労働力や物品調達は極力東ティモール内とし、また、浄水施設の維持管理が容易になるように、水道施設を整備した事例を報告し、人材開発や無収水等に関する質問を頂きました。

海外事業部の中園隼人は、「経済的側面からみた施設統廃合の有効性とその影響要因 -A 市水道事業の事例から-」について発表しました。将来の更新需要や耐震化費用を減らすため、経済的側面から施設統廃合の有効性を判定するとともに、その影響要因を検討する事例を報告したところ、施設統廃合という成熟社会の問題であるためか、オーストラリアや日本等の先進国の方々から質問を頂きました。

また、タパは 1 セッションの座長を務めました。加えて、中園は IWA-YWP(Young Water Professional)の運営幹事であるため、10 月 2 日開催の IWA 若手水専門家プログラムワークショップの企画・運営に携わり、ワークショップは参加者数 100 名を超える盛況な会合となりました。このワークショップは、上下水道や水環境問題に携わる若手のネットワークを促進することを目的とし、各国の優先課題や仕事紹介に関してご発表頂きました。

その他、この会議では、水源水質に基づいた浄水プロセスの選定方法、緩速ろ過の連続使用、スリランカの BOP ビジネス、下水処理プロセスのモデル化に関する研究等、興味深い発表が数多くあり、多くの知見を得ることが出来ました。